

クラダ・ベトゥール（トルコ）



はじめまして。私はトルコから来ました、クラダ・ベトゥールと申します。トルコの内務省災害緊急事態対策庁（AFAD）で14年間勤務しており、現在は、国際事業管理室作業部会長を務めています。それ以前は13年間、人災作業部会長を務めていました。災害管理のさまざまな分野で働いてきましたが、特に災害リスク軽減の分野において長年携わってきました。上記の通り、私の専門分野は人為的災害であり、産業事故、産業事故リスク分析および影響地域モデリング、気候変動、

インフラ、産業組織および工業地帯の事業継続計画に関連するEUとの調和研究、法規制に関する研究を行ってきました。

人災作業部会の専門家アシスタントとして始めた最初のプロジェクトは、トルコの技術（人為的）災害ロードマップの整備でした。私は、EUの枠組みの中で、関連機関や組織を調整役として、産業の事故分野におけるAFADの役割を担当しました。そして、「トルコのセブソ施設の火災・爆発・有害物質放出のモデリング」プロジェクトでは、産業事故への準備と対応に役立てられるAFAD-EKAというソフトウェアを開発しました。また、インフラは災害の観点からも重要であることから、私のチームは分野別のプロジェクトを展開しています。これら事業は、「重要インフラの回復力と災害リスク認知の支援」と「パイロット地域におけるエネルギー部門を対象とした気候変動が重要インフラに及ぼす影響」に着目した、イズミル・アリアガ・プロジェクトと呼ばれています。さらに、災害に対する産業部門の重要性に着目した、「組織化された工業地帯のための事業継続計画（BCP）ガイド」を作成し、公表しました。また人災作業部会の議長として、「トルコにおける気候変動に起因する災害リスクの適応と軽減におけるAFADの能力強化のための技術支援」事業を調整しました。私が2024年に完了させたこのプロジェクトは、気候変動への適応と災害管理の分野におけるトルコ初のプロジェクトとなりました。

今回、ADRCのVRプログラムで来日できたことは、私にとって大きなチャンスだと思います。私の研究テーマである、「気候変動による災害への適応とリスク軽減の研究」は、帰国後より有益な仕事に繋がると信じています。日本で得た経験を活かして、母国での業務に、今後より貢献できるでしょう。